

全大学の 56% で A O 入試を実施！ 愛媛大・I C U・中京大など 20 大学で新たに導入

平成 16 年 7 月 旺文社 教育情報センター

A O (アドミッション・オフィス) 入試は、学力面に偏らない総合的な人物評価を行う入試として急激に普及した。旺文社のアンケート結果によると、6 月中旬現在で、全四年制大学の 56% が A O 入試を実施することがわかった。平成 17 年度の新規導入校は、国公立大 7 校、私立大 13 校と前年度より少ないが、実施学部
の増加や募集枠拡大の動きは相変わらず盛んだ。

国公立 37 大学・私立 351 大学で実施

旺文社が全国の四年制大学を対象に行ったアンケート結果によると、国公立大は福島大・愛媛大など 7 大学、私立大は国際基督教大 (I C U)・武蔵大・中京大など 13 大学で、17 年度から新たに A O 入試を導入することが判明した (6 月中旬現在)。このうち、愛媛大は学部・学科横断型の理工系研究者養成コースとして新設する「スーパーサイエンス特別コース」(定員 15 人) の学生募集を、A O 入試のみで行う。また、17 年新設予定学部 (総合政策) で導入を予定する中京大と、知的能力や適性を測る独特の一般入試で知られる国際基督教大の A O 導入も注目される。

A O 入試は、国公立大が参入した 12 年度以降の 4 年間で実施校が激増 (グラフ を参照)。16 年度も、実施大学が 15 年度 337 校 16 年度 368 校 (国公立合計。15 年度は文部科学省調査、16 年度は旺文社調査) と 31 大学増えた。そして 17 年度の実施校は、前述の新規実施も合わせると 388 大学 (国公立大 37 校、私立大 351 校) となり、全四年制大学 (693 校) の約 56%、実に半数を上回る大学で A O 入試を行っている。私立大に限れば、実施校は全体 (537 校) の 65% にも達する。

17 年度に A O 入試を新たに導入する大学

国公立大学 (計 7 大学) 福島大 - 理工学群、山梨大 - 工、愛媛大 - 理・工 (スーパーサイエンス特別コース)、青森公立大 - 経営経済、群馬県女大 - 文・国際コミュニケーション*、横浜市大 - 国際総合科学* (商・国際文化・理を統合予定)、県立長崎シーボルト大 - 国際情報

私立大学 (計 13 大学) 仙台白百合女大 - 人間、千葉経大 - 経済、国際基督教大 - 教養、武蔵大 - 人文・社会、L E C 東京リーガルマインド大 - 総合キャリア、愛知文教大 - 国際文化、中京大 - 総合政策*、東邦学園大 - 経営、京都嵯峨芸大 - 芸術、佛教大 - 文・教育・社会・社会福祉、追手門学院大 - 文・経済・経営、畿央大 - 健康科学、広島国際大 - 社会環境科学・人間環境・医療福祉

<注> 6 月中旬現在の判明分。* は 17 年新設・改組予定の学部

17年度AO入試の“新傾向”

実施校の増え方自体は15年度以前に比べると落ち着いたが、すでにAO入試を行っている大学で、実施学部・学科を増やしたり、募集人員や募集回数を増やしたりする動きは相変わらず盛んだ。ただし、一部の大学で、募集枠縮小や出願条件を厳しくする動きもみられる。以下、17年度の新しい傾向を紹介する。

[実施学部増] 筑波大 - 図書館情報専門学群、神戸大 - 発達科学、日本大 - 経済・芸術、関西学院大 - 社会・商・総合政策・理工など18大学(27学部等)で実施学部を増やしている。とくに関西学院大では、募集枠が一挙に全学で「30人 265人」に拡大した。

[募集人員・回数] 帝京大では実施学部増(薬・医療技術)と募集回数増(1回 3回)に伴い、AO募集枠を一挙に「327人 1,070人」に拡大した(公募推薦を1,058人 319人に減員)。この他、桜美林大(335人 406人)、杉野服飾大(65人 120人)、東海大(562人 603人)など、首都圏で募集枠拡大が目立つ。一方、松山大 - 経営ではAO募集枠を「75人 10人」に縮小し、新たに公募推薦・特別選抜を導入する。

[出願資格] 慶大 - 総合政策・環境情報では、従来のA方式(書類審査・面接)に加え、B方式(書類審査・グループディスカッション・面接)を新規実施するが、後者の出願資格に成績条件(評定平均値4.5以上)を加えた(A方式は成績条件なし)。旭川医大(4.0 4.3)、立正大 - 社会福祉(3.0 3.5)でも評定平均値を高めている。一方で、関西大では評定平均値を「経済4.0 3.5、社会4.0 3.8」に緩和した。

[選考方法] AO入試は「エントリー(申込) 面談 内定・正式出願 合格」という流れが代表的だが、ここ2~3年は、模擬講義を受けレポート提出、プレゼンテーション(提出レポート・作品等について、面接者に対して発表)、グループ討論、といった方法を選考に採り入れる大学が増えている。

17年度の新規実施校では、千葉経大・武蔵大・愛知文教大などが を、福島大・群馬県女大・中京大などが を採用している。また、立命館大 - 経済で「セミナー方式」(模擬授業・レポート・面接で選考)を導入、中央学院大でC方式(プレゼンテーション)を導入、東北学院大 - 経済(経済)でグループ討議を追加する。

17年度にAO入試実施学部を増やす大学

国公立大学(計3大学3学部)

筑波大 - 図書館情報専門学群、東京海洋大 - 海洋工、神戸大 - 発達科学

私立大学(計15大学24学部)

東京国際大 - 経済・人間社会、帝京平成大 - 薬・ヒューマンケア、東京成徳大 - 子ども、実践女大 - 人間社会、帝京大 - 薬・医療技術、日本大 - 経済・芸術、文化女大 - 服装・造形、明星大 - 経済・理工、立正大 - 経営、フェリス女学院大 - 音楽、東海学園大 - 人間健康、大阪電通大 - 工2部、関西学院大 - 社会・商・総合政策・理工、吉備国際大 - 政策マネジメント、九州産業大 - 商1部

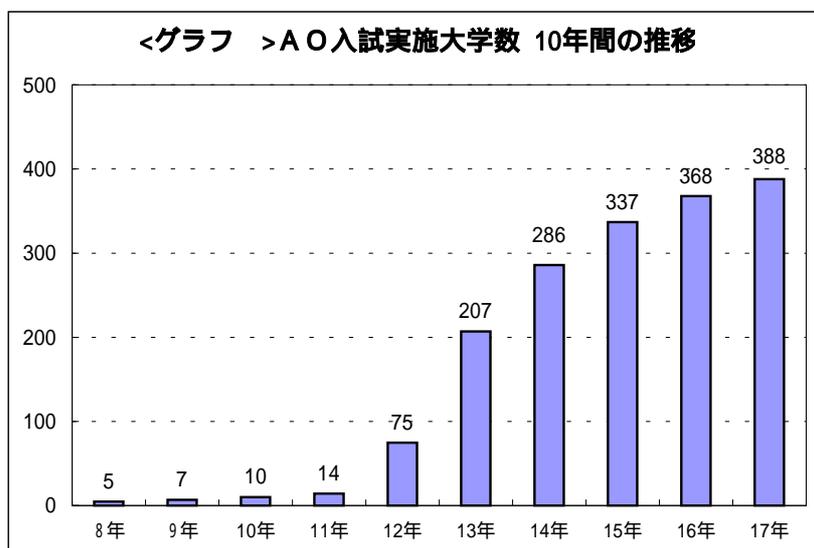
<注>6月中旬現在の判明分。*は17年新設・改組予定の学部

倍率は国公立大 4 倍強、私立大 2 倍近くか

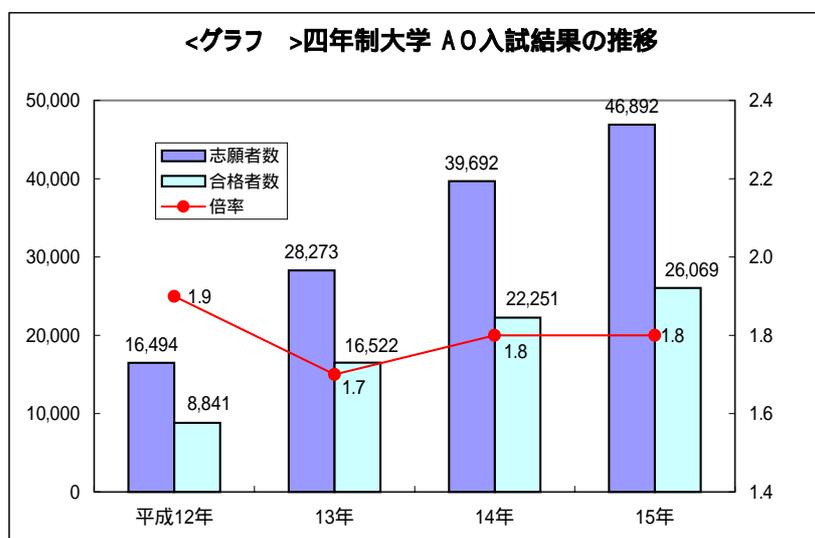
A O入試の倍率はどの程度になるのか？

16年度の結果をみると、志願者数（旺文社集計：15年12月現在）は全体で前年比9%増加したが、合格者数も7%増加し、倍率（志願者数÷合格者数）は2.3倍で前年度とほぼ同じだった。また、文科省の調査では、四年制大学全体のA O入試の倍率は、15年度までの4年間で1.9倍 1.7倍 1.8倍 1.8倍と安定している（グラフを参照）。このうち、国公立大は4.3倍 4.0倍 4.0倍 4.2倍、私立大は1.8倍 1.6倍 1.7倍 1.7倍と推移し、17年度もほぼ同程度の倍率となろう。

ただし、医療系や法律、心理など人気のある系統では高倍率になるケースが多い。例えば16年度は、慶大 - 看護医療 20.4倍、金沢医大 12.2倍、関西大 - 法 7.2倍、明治学院大 - 心理 9.7倍など。こうした学部・学科では、17年度も激戦は必至だ。



（注）15年以前は文部科学省調査、16年以降は旺文社調査による。



（注）文部科学省調査による。倍率は志願者数÷合格者数

AO入試はここに注意！

受験生の間で高まるばかりの「AO人気」。しかし、AO入試は原則として専願制（他大学との併願不可）であるうえ、人物評価に重きを置かれたり、選考が長期間にわたったりするため、最終的に不合格になった場合、精神的なダメージが大きく、他の入試の準備が間に合わない危険性がある。

あくまでも、多様な入試の一つとして考え、AOだけに入れ込まないこと。推薦入試や一般入試についても、並行してしっかり準備しておこう。

また、AOは早い時期に合格が決まるため、入学までに受験時の意欲や学力・能力を失ってしまうケースもあるという。そうしたことのないよう、課題レポートを添削指導したり、資格取得の講座を開いたりする「入学前準備教育」が充実した、面倒見のいい大学を選ぼう。この他、エントリー受付や面談は、大学主催の説明会やオープンキャンパスなどで行われる場合も多いので、AO希望者は忘れずに参加しよう。